

# 百年桜 新

学校教育目標

かがやく ひとみ

～自律できるたくましさを育む～

## 低学年



## 高学年

9月の様子



## 中学年



体験活動からの学びを、今後の学校にいかすことが大切です。

21日のPTA環境整備作業にご協力いただきありがとうございました。

## お知らせとお願い

- ◆ 秋分の日を迎えて・・・連日、湿度が高く35度を超える猛暑が続きます。エアコンは、悲鳴をあげ、水筒を2本持ってきても下校時には、空っぽになります。先日の学校運営協議会では、「着替えタイムを設けて、子どもたちに着替えをさせてほしい。」というご意見をいただきました。可能であれば、体操服やTシャツ等の着替えを持たせていただければと思います。(いつの時間帯にするかは検討中です)
- ◆ ペットボトルキャップの回収について・・・地域の方が、回収されたペットボトルキャップを定期的にもってきてくださっています。現在本校では、回収作業をしておりません。今後回収する際には、また学校だより等でお知らせいたします。ご理解とご協力をお願いいたします。
- ◆ 全国学力学習状況調査の結果から・・・個人の個票は、10月初旬に返却します。また、本校の結果を分析して、今後どのような学力向上策を取り組んでいくのかについては、10月の学校だよりに掲載します。

- ① 1年 生活科(虫を探そう)
- ② 1年 国語科(大きなかぶ)
- ③ 2年 リレー練習
- ④ 2年 副籍交流
- ⑤ 低学年 集団演技(ダンス)
- ⑥ 3年 理科(植物の育ち方)
- ⑦ 3年 新旭養護学校交流
- ⑧ 中学年 ソーラン節 練習
- ⑨ 4年 やまのこ体験
- ⑩ 4年 市音楽会の練習
- ⑪ 6年 保健指導
- ⑫ 6年 いじめに関する講演会
- ⑬ 5年 陶芸教室
- ⑭ 5年 福祉学習
- ⑮ 高学年 集団演技(組体操)

### がんばれ!南小6年生!

9月27日(金) 午前中 今津総合運動公園にて、市内陸上記録会が開催されます。屋外での運動制限があるなかでしたが、一生懸命練習に励んでいます。健闘を祈ります。

## 10月の主な行事

- 1日(火) 1年校外学習(ピックランド) 弁当必要  
「いのちの日」 前日準備
- 2日(水) 「いのちの日」 PTA 親子学習会  
職員会議
- 3日(木) 1年 芋ほり 夢の会サポート会議
- 4日(金) 3年校外学習(商業施設見学)
- 6日(日) 8:00~1時間程度 学校敷地内剪定作業  
※ボランティアの皆さんを募集しています。  
お手伝いいただける方は、ご連絡ください。  
(電話 25-2009)
- 7日(月) 大師山ボランティアサークル(草刈り)
- 11日(金) 家読の日 運動会前日準備
- 12日(土) 秋季運動会(雨天延期 14日 その後順延)  
8:40~12:00頃 終了予定
- 14日(月) スポーツの日

- 15日(火) 運動会振替休業(12日または14日に実施の場合)
- 16日(水) 民生委員児童委員懇談会
- 17日(木) 5年校外学習(カルビー工場) 弁当必要
- 18日(金) 2年歯科指導
- 21日(月) 2年 町探検 クラブ活動
- 22日(火) コロちゃんお話し  
1年秋みつけ(マキノピックランド)
- 24日(木) 3年校外学習(消防署見学)  
1年秋みつけ(マキノピックランド)
- 26日(土) 県陸上記録会 滋賀県人権教育研究大会
- 27日(日) 滋賀県人権教育研究大会
- 28日(月) クラブ活動
- 30日(水) 31日(木) 6年 修学旅行(広島・宮島)

18日(水) 第3回学  
校運営協議会の熟議  
の様子です。



## 「推測」と「情報」と「事実」が分けられていますか？

お子さんが「きっと私、みんなから嫌われてる。私なんか、いないほうがいいんだ。」と呟いたとします。そんなとき、親であるあなたは我が子に対してどのような対応をするでしょうか？

「そんなことないよ。大丈夫だよ。」←これはやめてくださいね。悪気はなくても「そんなことないよ」は、せっかく自分の気持ちをそのまま吐露してくれたのに、それを頭から否定してしまうことになりまし、  
「大丈夫」か「大丈夫ではない」かは、本人の気持ちであってあなたが勝手に決めつけることではありません。

つい、親心としては「励まさなくては・・・」とか「なにか元気づける言葉を伝えなくては・・・」と思ってしまうでしょうが、じつのところ逆効果になります。せいぜい「お母さん、聴いてくれない！」とガツカリされるのがオチです。まずは、いったん子どもが発した言葉をそのまま受け取ることが大切です。

たとえば、「そう・・・そんなふうに思えたら辛いね。」から始まり、「どんなときに自分が嫌われていると感じるの?」とか、「誰かに何か言われたの?」といった具合に、その想いに至るきっかけとなった出来事や根拠について尋ねます。これについては特に子どもだけに限ったことではなく、親である自分自身もまた想像や推測、思い込みを前提に捉えていないかについて振り返ってみる必要があるかもしれません。

「きっと〇〇に違いない!」「おそらく△△なのだろう・・・」これらは自分の頭の中に勝手に湧いた空想の産物でしかなく事実ではありません。それを基に不安になったり、怖くなったりするのは無意味なことです。また、自分以外の誰かが想像して口走ったことを真に受けるのも愚かなことと言わざるを得ません。

本来、自分の目で見て自分の耳で聞いて自分の手で触れて実感したことしか信じてはいけないのですが、いまやリアルとバーチャルの違いさえ判らなくなってしまう子どもたちに対して、せめて親である自分だけでもしっかり「事実」に基づいて判断し、子が理解できる質問ができることが大事だと思います。